

令和2年度 第1回磐田市総合教育会議 会議録

日 時 : 令和2年8月27日(木) 午後3時30分～午後5時00分

会 場 : 磐田市役所 西庁舎3階 特別会議室

出席者 : 市長、教育長、杉本憲司委員、青島美子委員、秋元富敏委員、鈴木好美委員、
(出席者6名)

事務局 : 企画部長、教育部長、秘書政策課長、教育総務課長、学校教育課長、秘書政策
課政策・行革推進グループ長、教育総務課総務グループ長、担当

傍聴者 : なし

【会議次第】

1. 開 会

2. 市長あいさつ

3. 協 議 事 項

(1) コロナ禍における学校生活について

(2) その他

4. 閉 会

[協議の主な内容]

(1) コロナ禍における学校生活について

市長

コロナは時間が経つにつれて、色々なことが分かってきているが、新しい課題を社会は突き付けられたと思っている。子供たちは、このコロナ禍で、1学期、夏休みと初めて味わうことが多く、今は授業も再開されているが、今後のことを含めて、ざっくばらんな意見交換をし、その中で良いヒントがあればと思っている。

教育長

コロナ禍で、子供たちの貧困の問題が今どうなっているのか説明しておく。2年前に、市で子供の貧困調査というアンケート調査をやった。その中で、「子育てや子育て世帯に必要な又は重要と思う支援は何か？」という質問があったが、「子供の進学にかかる費用負担の軽減」が一番であった。

1点目の文部科学省が隔年で実施している「子供の学習費実態調査」では、子供の学校教育や学習塾も含めた学校内外の活動のために保護者が支出した1年間の経費を表している。最新の平成30年度調査と、2年前の28年度とを比べてみると、一般的に増加傾向にあるといえる。

2点目の「就学援助受給者数の推移」では、平成30年度の段階で、ついに千人に達した。ここの境目が大きかったと思っている。これ以降、少し傾向が変わり、若干、多くなる成り具合が控えめになった感がある。今後も、いろいろな形で分析していく必要があると思っている。

3点目の「放課後児童クラブ利用人数とクラブ数の推移」では、推移をみる限り1,500人程度の人数を想定し、同時に、施設等も考えていくのが大切ではないかと思っている。

4点目の「不登校の児童・生徒数」では、平成28・29年で一度増える数が止まったと思われたが、令和元年には再び大きく増加に転じた。今、分析をしながら対応策をさらに進めているところである。

コロナ禍で様々な面で大変厳しい状況にあるので、磐田市に今、何が必要なのか？何を大切にすべきなのか？その辺のところを自由に話し合いの中で触れられたらと思う。

市長

教育というのは社会の縮図みたいなところがある。質問をして説明を受けると、その世界では理屈は合っているが、全体から見ると理屈があっていないことに気付くことがある。そういう意味では、いい教育現場を作るためには、教育だけを長くやっているだけではバランスが崩れる可能性もある。

誰が考えても、福祉分野と教育分野は、今後の日本の社会の根幹であることは、間違いない。委員からご意見をどうぞ。

委員

先ほどの学習費について、私立高校は授業料が無償化になったと思うが、それでも増えているのか？

教育長	<p>高校の授業料無償化に関しては、今年度からなので、先ほど示した数字には反映されていない。</p>
委員	<p>高校の公立か私立かというのは子供たちの選択なので、私立の学費は多少割高だが、その価値を考えれば、それはそれでいいのかもしれない。</p> <p>ネットで調べたところ、静岡県的高校における公立・私立の割合は、公立が67%、私立が33%だが、東京は公立が41.6%、私立が58.4%で、東京では公立以外の私立に通っている人が多いことになる。いずれにしても、学費や就学に関して無償化が進むのはありがたい話だと思う。</p> <p>次に、放課後児童クラブの利用者が増えているということだが、児童数減及び少子化の中で言えば、割合は相当増えていると思う。</p> <p>不登校については、不登校になる子を減らすというのは大切だが、なかなか難しいのではないか。それよりも、不登校の子を、あすなろや民間のフリースクールに行ってもらうなど、学校とか社会に戻れるようにしてあげる方に力を入れてはどうか。</p>
事務局	<p>委員のご意見は、もちろん大事だと思っている。昔は、学校にいななければならないという感覚が強かったが、今は色々な所に子供たちの居場所があるように、発想が変わってきている。あすなろもしかり、今、中学校には心の相談員がいて、教室に入れない子は、そこで子供たちの精神の安定を図っており、それが保護者の安定を図ることに繋がっている。</p> <p>学校教育課としても、磐田にそのまま住み続ける子供たちなので、未来を見据えて、子どもの居場所づくり、外へ出るきっかけづくり、卒業した後の道について、これからも大事にしていきたいと考えている。</p>
教育長	<p>静岡県の学校は、東京や他の都道府県と比べても安定した状態であると思っている。私立学校の特色として、学習の展開も一生懸命やっており、素晴らしい実績もあると改めて思った。</p> <p>静岡県の場合は公立志向が強いので、各校の特色をしっかりと持つ高校がだんだんできつつある。進学校ということだけではなく、今や学校としての伝統を、しっかりと重んじ教育を展開できるところがほとんどになったのではないか。</p> <p>不登校の評価は数にあらす。ある不登校の子は、「僕は、好きで不登校をやっているわけじゃない。やるべきことが自分にとって必要だった。」と言った、全体的に少なくすればいいということではなく、もう一度、子供一人ひとりを見て、その子の自己実現のために、しっかりと取り組んであげることが必要だとあらためて思った。</p>
市長	<p>今は、コロナで社会もすごく揺れ動いている。学校現場も大変だし、政府も省庁も本当に目先のことに追われて目一杯といった感じが、テレビを観ても見受けられる。コロナに関していえば、専門家の意見もバラバラなので、きっと保護者は迷われるだろうと思う。</p> <p>そこへ、イライラが募って、犯人探しみたいなのが始まっている感がある。いくら先生</p>

方がそういうことは止めましようと言っても、これは人間の性の一面であるので、なかなか難しい問題だと思う。

市内で初めて陽性のニュースを受け取ったとき、磐田市の中でどのくらい炎上するのかと、実はネットも含めて心配した。結果的に全く無かったわけではないが、大都会で行われているようなことはなかった。今は7人で止まっている。

公表の仕方は、一個人の意思を尊重しているため、特定の市町村が分からないように報道されていることもあった。先日、知事と県内市長とのリモート懇談で、そういうことは逆に疑心暗鬼を生むので、せめて市町は公表ましようという意見が多く出た。それと、本人が納得していなくても、せめて年代ぐらひは言おうということで、知事も確約してくれたので、今はそういう流れになった。しかし、情報の共有・公表は難しい。

もう1つコロナ関連で言うと、ほとんどの首長がPCR検査を拡充すべきだと言っていた。検査費用は、濃厚接触者の場合は公費でやるので負担は基本ゼロだが、濃厚接触者から漏れている人や希望者の場合は、3万円以上の実費になってしまう。庁内で若干検討しているのは、PCR検査機器は1千万以下で手に入るの、検査結果をすぐに出せる体制は、危機管理として必要ではないか、ぜひ検討してもらいたいと知事に投げかけた。磐田だけでもやれないことはないが、統一基準が無いと、弊害が大きいのが難点である。

先日、浜松市長と話したとき、例のクラスター関連は色々大変だったと伺った。当事者だけでなく、人の流れが止まってしまったのが痛手だった。これは他人事ではない。こうしたことがあると家の中がギスギスしてくる。そうすると、子供を持つ家庭は暗くなる。色々なことが玉突きみたいに起こってくるのが心配だと話していた。

委員

私は保護者目線で話させてもらう。月曜日の「いわた応援チケット」二次販売の人はすごかった。磐田郵便局もすごい人で、セブンイレブンで売っているのを思い出して、グーグルで検索しようとしたら、磐田市の後にセブンイレブンと出てくるぐらい関心があるものだと感じた。話題にもなり、人も動き、それで何か買おうという話にもなっていることだと思う。

うちには大学生がいる。大学生に応援物資を送ってくれているようだが、うちの子は、3月の時点で帰ってきており、その後、授業はオンラインになり、そのまま後期もオンラインになり、1年間オンラインということになったので、もう東京を引き払った。コロナが流行っている中で、神経質な子は本当に出ていない。磐田には帰らない、夏休みも帰らないし、これからしばらくは帰れない、しょうがないから遊ぼうという子もいる。理系の場合は、実験で学校に行かなくてはいけないので、その時は行くけども、それ以外はずっと家にいて、なるべく遊ばないようにしようとか、本当に外出自粛をしている大学生は結構いるので、その中でお米を貰ったり、メロン貰ったりというのは、親にも子供にとっても助けてもらった感が強いと思う。

子どもたちを見ていると、小学生はとにかくマスクをしている。先生の言うことをよく聞いているなとすごく思う。うちには高校生もいるが、高校生はいつも通りという感じで、一番マスクをしていないのも高校生だと思う。

それを見た、家でオンラインしかしていない大学生は「いいよね、高校生は。普通っぽくてさ。」って言っている感じなので、本当に子どもたちの心もいろいろだなと思った。

子どもたちは、それぞれに注意しながら生活はしているけれども、その中で心の浮き沈みがあると思う。友達とも会えない、修学旅行どうなるの？といったことで、子どもたちは大変影響を受けているなと思った。今では2週間先の予定もたたない。どこかでクラスターが出ればすべてが破談。運動会できる？頑張ろう！と思っていたところの心をへし折られることになる。子供も大変だけど先生も大変だと思う。だれもが不安なので、助け合っていかなきゃいけないと思う。

市長 先生たちはどういう意識でやっておられるのか？行事も含めて、先行き不透明だが。

事務局 6月の学校再開時点で新たな1年間を作ろう！ということで、各学校はあらためて計画を立てている。体育祭や運動会については、今の状況だったらどういうふうにするか？というのを検討し直していると思う。

ただ、一番大きな課題は、修学旅行のような行事で、教育委員会である程度の基準を示し、そのうえで各学校内で検討して、中止を決定・行き先変更・代替行事を検討・子供たちの意見を聴取・保護者と一緒に検討といったことをしている。修学旅行は、小学6年生・中学3年生にとって最大のイベント。それがなくなることは、本当に僕らも悲しいし残念なことではあるが、それ以上のもので何ができるのか、学校は今、一生懸命考えている。

委員 行事のうち修学旅行については、学校ごとの対応もあると思うが、基本的には、行き先を含めて、ぜひ実現してほしいと思っている。
青春の1ページというか、子供たちの大きな心に描く写真・映像が残ることになるので、行き先はどこでもいいので何か考えてほしい。

事務局 学校の方でも、何も無しにはしたくないという思いがある。本来の行き先は、中学校だと多くは京都・奈良、小学校だと東京が多い。東京・京都・奈良方面は大変だからやめようではなく、今できる環境の中で、精一杯、学校の方では検討を、子供たちにとっての検討をしている状況である。

委員 昨日、静岡新聞の社説に修学旅行の見直しについて取り上げられており、その中で「やめることは簡単だと思うけど、それよりも確かな思い出づくりについてしっかりと検討する必要があるのではないか？」ということが載っていた。

それと、貧困の話だが、僕らの時の貧困と今の貧困は違うということに気が付いて驚いた。私たちの若い頃は、アルバイトをやると自分のお金として、自分で使えるお金になっていたが、今は違う場合がある。テレビで見た貧困層の家庭では、子が稼いだアルバイトのお金は、親に渡して、生計費の一部になっていた。それを見て、これ

は違うなと感じた。市長が「逆境時にこそ、将来への布石」と話していたが、私は世間のものの考え方や捉え方が何となく変わってきたような感じを受けている。

委員 孫を見ていると、ジュビロの一斉観戦が無くなるなど、本当にコロナでかわいそうだなと思う。

民生委員をやっている時に、町内の不登校の子に関わったことがあった。その時に思ったのは、ちゃんと美味しいものを食べさせて、それで話を聞いてあげさえすれば、楽に心を開いてくれるものであるということ。結局、あすなろに行っていると聞いたので、それ以上関わらなかった。子どもというのは、単純だと思う。しっかり愛情持って育ててやれば、ついてくる。だから、そういう大人でありたいと思う。

市長 今日は、天竜在住の保健師に会った。たまたま合併の話になり、天竜市を中心として北遠で1つの市を作っていたらという話をした。規模が大きくなったら進む事業というのは確かにあるが、普通に暮らしている人は、そんなに大それたような望みがある訳ではなく、ささやかな生活を維持できればよい。別れ際に「今は時代の変わり目だが、最後はやっぱり人。保健師も視野を広げないと、従来の学んだだけの保健師ではダメ」という話をした。

時代を根底から変えることは我々にはできないが、磐田市ぐらいの17万都市だと、キラリと光るぐらいのことは、頑張ればできるかもしれないと思っている。

先ほどの修学旅行の話でも出たが、コロナでガタガタしているときに、国や県で基準を決めてくれれば楽なのと思ったことがあった。市だけで決めると、「なぜこうしたのか？」などと苦情ばかりだと聞いている。今の日本の社会で、少し足りなくなっているのは、自律だと思う。実施と中止の是非について意見や苦情を受けたとき、先生方はどうやって説明するのか？必ず賛否両論あるので、そういうことがあったときに、「いや、何を言っているんですか？」と応援するのが、周りのPTAであり、学校の応援団であり、我々だと思う。これを決めた学校長や先生方が、苦情を一手に引き受けていたら、大変なことになる。

平時には分からなかったが、非常時に頭角を現してくる職員がいる。そういう意味でいえば、先生が自然の中で鍛えられるのも今の時期。どうさばくのも今の時期。誹謗中傷を受けたときに、それをどうやって解決するか？とにかく現場に強い人たちを育成していかないといけない。何でも謝ればよいというものではない。

委員 PTAをやっていたときに、生徒指導の先生から、悪い子、いわゆる不良みたいな子は、すごく少なくなっているが、反面、心が弱くて、何かあったらすぐ心が折れて学校に来なくなってしまう子が多いと聞いた。結局、人は働いてなんぼというか、社会に出て、社会と繋がって、お金を稼いで働くことが大事。それに向けた、心の強さが必要ではないか。

市長 今年の4月から、新任で、来られた学校教育課長、こんなことが自分たちの悩みであるとか、こういうことを側面支援してもらえると本当にありがたいといったことがあれ

ば、せっかく教育委員の皆さんがいるので、話したほうがいい。

- 事務局 悩みは山ほどあるが、3月まで学校にいて、4月から教育委員会入り、学校の見え方が変わった。今、学校教育課長として出来ることはなにかと考えたとき、学校の自立を支えていくことが大事なことだと思っている。
- 修学旅行をどうするか？ということは、校長にとって本当に苦しい悩みどころだと思う。修学旅行やめるのは、僕は、簡単ではないと思う。やめることこそ、すごい苦渋の決断を校長がするのだと思う。そのときに、なぜやめるのか、とことん子供のことを考えたというところに、その学校の文化が生まれてくるのではないか。そういう支援をするときに、どういう支援のしかたを、教育委員会として、自分はこれから、やっていけばいいのかと考えている。そのスタンスを自分で探っている状況だが、何かご示唆をいただきたい。
- 委員 昭和33、4年頃、やっと自立して、みんなまだまだ、苦しかったけれども、そのときには家族や地域の力があつたと思う。まわりの愛というか、そういうコミュニティがあつた。校長先生とか担任の先生が、ひとりで抱き抱えて、頭を悩むのもいいと思うが、学校運営協議会(CS・シーエス)に一度お諮りすればジャッジ出来るのではないか。
- 教育長 まさに、そのとおりだと思う。
- 先ほどのプレミアム商品券の話で、苦情がたくさん来たのは事実だが、それよりもっとたくさん「よかったよ」ってことを、言ってもらえた。
- 先ほど、子供が弱くなったという話が出てきたが、子供が弱くなったのは、大人が弱くなったから。つまり、不安を露出するってことは、それだけ、大人が弱い証拠。商品券買えなかったら、次のこと考えるっていうのが、実は強さである。
- 貧困も実は同じで、いったいどこから、それが生じているかという、大人の中途半端さが原因。大人が、大人になっていないから、貧困をつくりあげている。だから、そこをお互い同士、良さを確認していくことが必要。
- 委員 学校の学校経営は、CSが最高意思決定機関であるならば、そこで、意思を出して決めていけば、毅然と立ち向かうことが出来るのではないか。
- 事務局 今回のコロナと修学旅行の件で、保護者と学校運営協議会との繋がりがすごく増えたのではないか。ピンチをチャンスにはないが、消毒を含めて、相談して地域に助けてもらわないといけないことがたくさんあつた。地域も応援してくれているといった話を市内の校長へ伝えていきたいと考えている。
- 市長 学校での義務教育の他に、学校で足りないと思うこと、感じていることはあるか？
- 委員 私は、子どもたちの外遊びが足りないと思っている。元々、我々が今指導しているよ

うなスポーツ少年団は無かった。昔は、友達2、3人で、野球やサッカーなど、自分たちが面白いように、みんなスターになれるようなルールを勝手に決めて、たくさんやっていた。その中で色々なことを身につけ、その延長に、中学や高校の部活動があった。今はそういうことが全くないので、補完するためにスポーツ少年団が支えているが、外で子どもたちだけで、自分たちの都合の良いようなルールで遊ぶことにはかなわない。

市長 学校教育に期待するのは、勉強を教えることプラスのこと。学校教育は、家から出て接触している時間が一番長く、子供からみると。そこで知り合った先生の影響力を大きく受ける世界でもある。これをさらに充実したいというと、学校現場の忙しさが分かっていないという話になるが、大事なことと少し手を抜いてもいいことのメリハリをつけてはどうか。メリハリをつけられるのは、現場の先生だけである。やりたいことが積み重なりオーバーフローしている感じがする。
ところが、フォローしようとする、発達障害の子向けの支援員配置というかたちになってしまう。ほかに感じるころはあるか？

委員 子供たちだけで遊ぶことは大事で、やらせることができれば一番いいのはわかっているが、今のこの時期ではできない。コロナによる自粛で、一番心配しているのは、お祭りをはじめとする地域の行事が全部なくなってしまったことだと思う。やはり、お祭りなどを通して地域で絆ができていくので、今年だけでなく来年やめたら、もう復活出来ない。だから、来年以降は、どういう中でもやれるよう工夫して、地域と地域の絆を深めていきたい。大人がまとまれば、子供もまとまるので、それを今、一生懸命考えている。

市長 今、いいヒントをいただいたが、「中止」が一番簡単な決断である。その決断は、すべて大人が決めている。大人が弱いところは、なにかあったらどうするのかと言われたときに、答えが出ないところ。何かをやって陽性になっても、それはそれで良い意味で捉えるような、地域風土、磐田市の風土を作る必要がある。全てオール オア ナッシングでは、色々な意味で心配。コロナも2月に始まり半年が過ぎた。来年はこういう状況下にあっても、こうしようといった青写真くらいは作っておきたいと考えてはいるが、命や感染という話になったとき、勇気を持って言えない自分がいる。
今は、一律で修学旅行などについて教育委員会の見解を求めている。やらしてあげたいけど、難しいだろうと。
こうした寛容さが無くなってきているときに、全部自分決断しなければならない組織は大変だと思う。市のリーダーとして、こうしたことの大事さと中止するマイナスを、いつかどこかでぼつぼつとなったときに、一定の火の粉を被ってでもやろうと思っている。
教育委員の皆さんは、学校教育を応援する立場なので、勇気を奮って33校の学校が、CSを交えて決断したことは応援してやろうといった気風をつくるのが、まわりくどいようで実は早道のような気がする。

我々は、やれることは頑張っってやっっていこうと思っっているが、教育環境の中でも単なる支援員を増員するだけではなく、そのまわりの環境も整えてほしい。もし、異論が出たら、CSの人たちも前面に立っって、決断したのは我々だと言えるような地域であっってほしいと思っう。

異論を唱える人に、何を言うのかと言っり返すぐらいのたくましさを持っって、正面から対応していかないと、面倒臭いことを避けると、やめる方向になりがちである。これを、学校現場で見過ごしたら、かわいそうだと思っう。

10月から後半戦になるが、コロナに対する決断を本当に見直していかなければと思っう。学校に、子供たちに、先生たちに、ぜひ力をあげてほしいと思っう。冷静な方からは、行事が全部中止でいいのか？という声が上がっっているが、感染症に対して根拠が無いので、対応できないのが現状だと思っう。

事務局 ギガスクールで、ひとり一台端末を持たせるという話がある。元々は、貧困の家庭に持たせることが趣旨だったのかもしれないが、不登校の子とオンライン授業とがうまくかみ合えば、引き出せる良いきっかけになるのではないかな。

市長 オンライン授業は、先生が一人とパソコンがあればできる話。あすなるのような位置付けで、あすなるにも来れないけれども、家でやれるのだったら参加できるという子供たちを、ひとつのスキームにするというの、ひとつの手かもしれない。

事務局 これから、繋がり方も多種多様になってくると思っう。オンラインもしかり、不登校の子たちも繋がれるような可能性はすごくあると思っうので、研究していきたくと思っう。

市長 企画部門と一緒に研究すればいい。
両者で立案して繋ぎ合わせてみれば、実現可能な案が出来るかもしれない。色々な意味で武器と弾はあるので、大いに戦力的に使っって、不登校の子たちを少しフォローしていくということもやってみるといいような気がする。

委員 親戚の子が、東京の中高一貫のような私立校に通っっているが、入学してから一回も行ったこと無く、ずっとオンラインだと聞いた。ただ、普通と違うのが、休み時間もしゃべっっていい点。子どもたちにとっては、雑談をする時間がとても大事で、それがなければ、人と人との関係は出来ていかないとと思っう。雑談の時間というか、今誰かと喋っっていいよという時間をつくっってあげることが大事ではないかな。

市長 意外といいヒントかもしれない。
教育だけで考えると、カリキュラム、授業になりがちなところがある。

事務局 相互でやっったり、上と下があっったり、いろいろな使い方が出来て、新たなコミュニティが出来てくるかもしれない。

- 委員 子供たちはオンラインゲーム上で、外国の人たちが入ってきてても、普通に一緒にやれている。一緒になってしまえば、共通の敵を倒すといったコミュニティができあがると聞いた。
- 市長 真剣に考えても面白い。学校ではないので、単位がどうこうではなく、まずは普通感覚に少しずつ戻すために何ができるか考えたい。
これでツールは出来たので、それを活かすっていうことになったときに、今、これだけの子どもたちが彷徨っているという事実がある。先ほどの教育長の話に「好きで不登校している訳じゃない。」ということがあるとすれば、彼らはどこかで待っているような気がする。
それを、我々が構築できるかどうかにかかっていると思う。
どういう活かしかたをするのかは、遊びころからスタートするのもかもしれない。
- 委員 私の地域では、今年はお祭りも屋台の引き廻しも全部中止になった。でも、こういうときだからこそ、神事だけはやるようにした。大昔に疫病が流行っていたときも、先人たちの努力もあって、乗り越えてきている歴史がある。この状態を乗り越えられると、私は信じている。
- 市長 可能性も時間もたっぷりある子どもたちを、今のものさしだけで、判断をしまっていいのかという思いがある。耐えなさいいけないときもあると伝えたい。
今日も幼稚園の先生たちと話したが、かなり迷っている。密はいけないと言うが、幼稚園保育園で、密が無いなんてことはありえない。どこかで、こういうもんなんだという基準を言ってあげないと、現場は本当に困ってしまう。
今日は、限られた時間の中であっても、ひよんなことから、いい提案が出たと思っている。何日以上という規定で不登校とされた子どもたちの他にも、実際に迷っている子ももっといると思う。磐田らしさで何か構築できれば、大きな柱になると思う。
企画部門と教育委員会は、一緒に相談しなくてもいいので、それぞれ独自にこんなふうにしたらどうかという案を作って、協力していけば、アプローチ次第では、不登校者数の減は、それほど夢物語では無いような気がする。
今日は、雑談・懇談の中からヒントが出たので、次回では、こんなことだったら、実現可能ではないかということを議論できればと思う。